

アイデアが出てこない子への支援

子どもアイデアコンテストは子どもたちが課題を見つけ、そのアプローチの方法を考える。

子どもたちの自由な発想が大切であるが、特に授業時間内で行う場合などは、アイデアが出てこない子どもに対しての支援が必要になる。

ここでは、そのようなアイデアを支援するための方法として、考えることをサポートするためのシンキングツール®を活用した支援方法について紹介する。また、考えるための方法は子どもによって異なるため、個々に応じた支援が必要である。ここで紹介するシンキングツール®はその一例として参考にしていきたい。

<課題を見つけるための支援>

■課題についてのイメージを広げる

アプローチする課題を見つけるためには、まずは子ども自身がどのようなことを知っていて、どんなことに興味があるのかについて整理する必要がある。そこで、イメージを広げることを支援するイメージマップを用いて、子どもが持つ課題意識の整理をサポートする。

スタートする丸の中は、子どもの実情に合わせて変更する必要があるが、ここでは「普段の生活で困っていること」としているが、コンテストのテーマである「未来にあったらいいなと思うもの」などのように変更しても良い。

イメージを広げるのが難しい子どもにはまず、普段の生活を振り返る活動が必要になる。教師の方からその場面を投げかけ、具体的なイメージを整理させることも有効だろう。また、つながりから広げるのが難しい子どもに対しては、「何があったの?」「どう思ったの?」などの問いかけを繰り返すことで、イメージを広げる。イメージマップの作成後、つながりが多かった部分や自分が一番気になった部分などに丸をつけさせ、それをもとにアプローチする課題を決定する。



■気になった課題についてさらに追求し改善点を考える

日常の体験や困ったことからアプローチする課題が見つかったらそれをさらに追求し、具体的な解決方法を考える。PMIシートを用いて、対象を評価することで課題をより深く掘り下げて考える方法を紹介する。

イメージマップで見つけた「友達とのケンカ」について評価し、記入した例が以下のものである。Iについては、おもしろいところとなっているが、PまたはMに対する自分の行動や感じたこと、思いなどを記入させても良い。このPMIのうち、特にMやIに記入された内容を解決するための方法を考えることになる。

■具体的な発明アイデアをまとめる

ここまで考えが整理できれば、この先は子どもの発想力に任せる部分になる。上のイメージマップやPMIシートからは「落ち着いて話をするための道具」や「自分の気持ちをうまく伝えるための道具」などのような発想が生まれるかもしれない。

その発想を支えるために、さらにイメージマップで「友達とのケンカ」に関係するものを書き出すことも有効だろう。

<p>P プラス：Plus いいところ</p>	<p>M マイナス：Minus だめなところ</p>	<p>I インテレスティング：Interesting おもしろいところ</p>
<p>・自分の思ってること は言えた</p> <p>・我慢するんじゃ なくて、話し合おう とした</p>	<p>・友達の言ってるこ とをちゃんと聞こう としなかった</p> <p>・自分の気持ちを うまく伝えられなかつ た</p> <p>・二人とも大きな 声を出してしまった</p>	<p>・もうちょっと落ち 着いて話をしたら よかったな</p> <p>・ちゃんとお互いの 言ってることを聞け ばよかったな</p>

<発想を具体化するための支援>

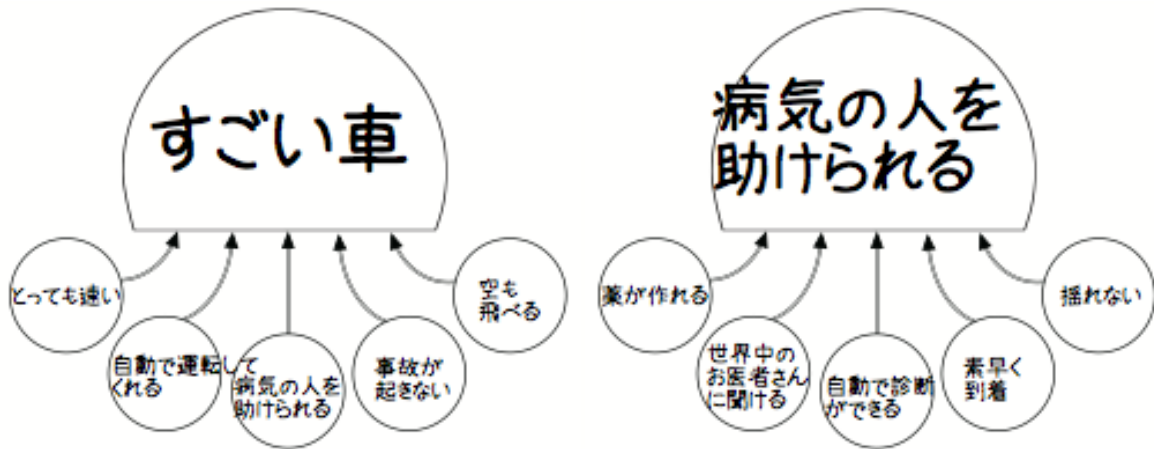
■どこがすごいかを説明させる

子どもたちの中には、とても面白い発想を持っているがそれをうまく説明することができない子どももいるだろう。

その場合にはイメージを広げるような支援ではなく、子どもの持つアイデアを具体化するための支援が必要になってくる。そのための方法としてくらげチャートを利用し、発想を具体化するための支援方法を紹介する。

くらげチャートは事象に対する理由や根拠を整理するためのツールである。

例えば、「すごい車」というアイデアを持っている子どもに対して、「何がすごいのか」を記述させることで子どもの持つアイデアを具体化することができる。くらげチャートが書けたら、理由の部分、頭の部分において、「なぜ病気の人を助けることができるのか」の理由を整理させることで子どものアイデアをさらに具体的にすることができる。



■特徴を具体化する

子どもアイデアコンテストでは、アイデアを絵にして応募する。そのため、アイデアの特徴を整理させることも有効である。例えば、一つのことを多面的に見るためのツール、くまで図を用いてその特徴を具体化させることができる。くまで図の観点は五感を書かせることも多いが、下の例のように、子どものアイデアを具体化できるような観点に変更することが大切である。

病気の人を 助けられる車

形

車と飛行機が
混ざったような感じ

色

薄い肌色みたいな
優しい感じの色

大きさ

患者さんを3人くらい
乗せられるくらい

音

サイレンみたいな音はならない。
鳥の鳴き声みたいな感じ。

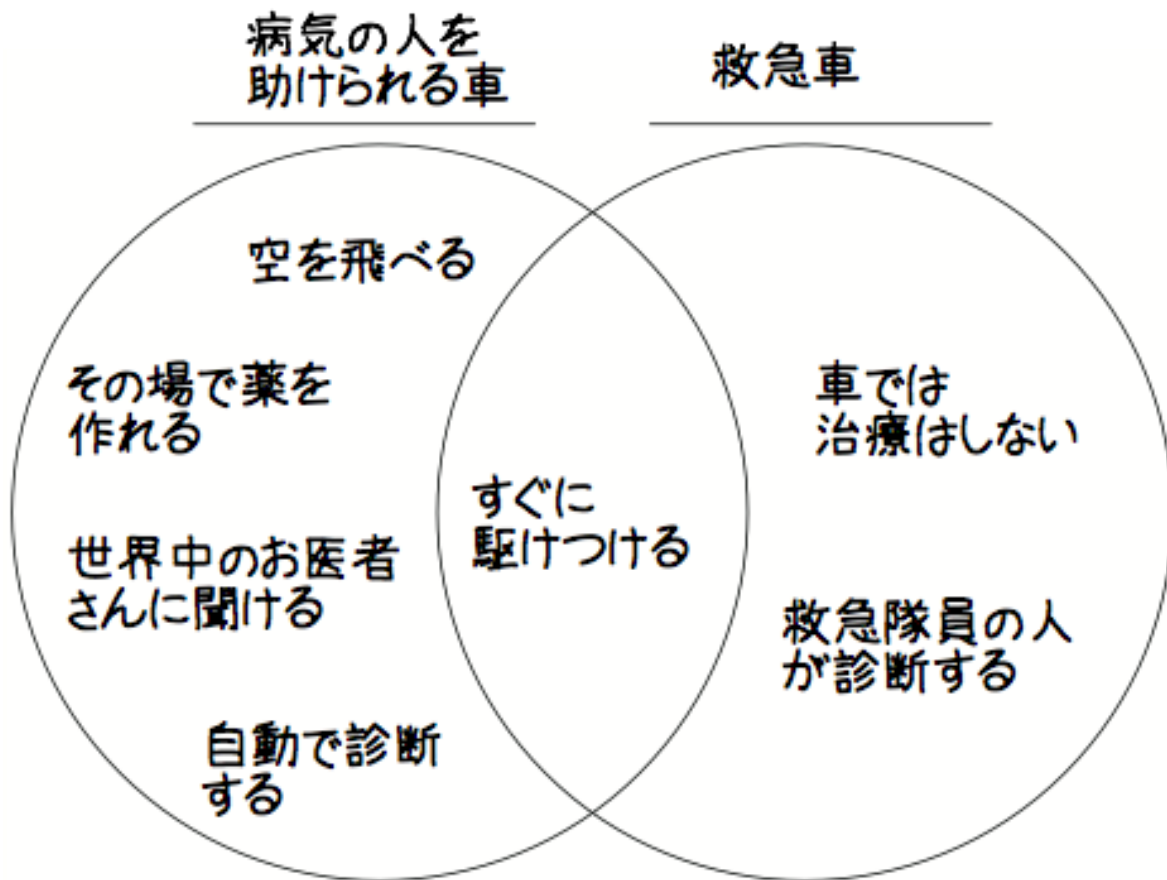
触った感じ

事故が起きないように柔らかい。
ちょっとあったかい。

■アピールすべき特徴を見つける

アイデアが具体化してくると、そのアイデアのどのような特徴をアピールするかを考える必要がある。そのための方法として、既存のものとアイデアを比較し、特徴を明らかにする方法を紹介する。比較するためのツールである、ベン図を使えば、自分のアイデアにどんな特徴があり、どこをアピールすべきなのかを見つけることができる。ただ、ベン図を書くためには、比較対象とするもの自体への知識も必要となってくるので、情報を準備しておく必要がある。

このように自分のアイデアにしかない特徴が整理されれば、その特徴をどのようにアピールしていくのかを考えることができる。



<まとめとして>

以上、シンキングツール®を使った子どもの支援についてまとめたが、シンキングツール®は思考を方向づけるためのツールであるため、自由な発想を持つ子どもに使ってしまうと発想を制限してしまう可能性もある。

それぞれの子どもの特性に合わせて、適したツールで子どもの発想を支援することが大切である。

<参考資料>

シンキングツール～考えることを教えたい～

http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/